

《文しょうもんだい 8》

文しょうもんだいをといてみよう。答えを文しょうの中からみつけよう。

【れいだい】

つぎの文しょうを読んで、とくに答えよう。

はじめて妹とふたりでるす番をすることになった。おかあさんは

「本とうにふたりでだいじょうぶ。」

と何回もぼくたちに聞いてきた。そのたびに、妹は「だいじょうぶだよ。ぜったいなかないもん。」

と言っていた。だから、ぼくもあんしんしていたのに。おかあさんがゆうはんの買いものに出かけて三十分したころ、妹がかいだんでころんだ。

「いたい、いたいよう。」

それまでわらっていた妹が、なき出したのだ。ぼくが「だいじょうぶだよ。」と言っても、なきやんでくれない。おかあさんが帰ってくるのは、三十分後だ。こまったぼくは、自分のへやにある大きなクマのぬいぐるみをもってきた。

「まみちゃん、こんにちは。どうしてないているのかな。」

ぼくはクマをうごかしながら、妹に話しかけた。すると、妹はなきながらクマのぬいぐるみにころんだことを話し出した。

「じゃあ、ぼくがまほうをかけてあげよう。いたいのいたいの、とんでいけ。」

クマをうごかしながら、妹の赤くなったひざをなでてあげると、妹はぴたとなきやんだ。そして、えがおで言った。

「クマさん、ありがとう。」

(とい) なぜ、おかあさんに「なかない」と言っていた妹がなきだしたのですか。□に入ることばを書こう。

から

で

【答え】 かいだん で ころんだ から

【かいせつ】

文^{ぶん}しょうのつぎの場^ばしょに書^かかれています。

「だいじょうぶだよ。ぜったいなかないもん。」

と言^いっていた。だから、ぼくもあ^かんしんしていた

のに。おかあ^{さん}さんがゆうはんの買^かいものに出^でかけ

て三十分したころ、妹^{いもうと}がかいだ^んでころんだ。

「いたい、いたいよう。」

それまでわらっていた妹^{いもうと}が、な^だき出したのだ。

つぎの文しょうを読んで、とくに答えよう。

先週、わたしはおとうさんとおかあさんと弟のマサトの四人でりんごがりに行きました。りんご園には、まっかなりんごがなった木がたくさんありました。わたしは弟と、どちらが大きなりんごをとれるか、きょうそうすることにしました。

「あつ。」

わたしは大きなりんごを見つけたました。でも、手をのばしても、りんごにとどきません。

「どうしよう。あのりんごなら、ぜったいマサトにかてるのに。」

高いところにあるりんごを見つめっていると、きゅうにりんごが目の前にきました。

「どうだ。これならとれるだろう。」

おとうさんが、わたしにかた車をしてくれたのです。わたしは、

「うん。ありがとう。」

と言って、その大きなりんごをとりました。大きなりんごを手に入れることができたわたしは、心の中で「マサトにかつた」と思いました。

(1) りんご園でわたしと弟は、何をするにしましたか。□に入ることを書こう。

どちらが

をとれるか

することにした

(2) なぜわたしは、大きなりんごをとることができたのですか。□に入ることを書こう。

がわたしに

をしてくれたから

(3) 本文のないように同じものを、アからウからえらぼう。

ア 先週、わたしはりんご園に行きましたが、まだりんごが木になっていませんでした。

イ わたしは大きなりんごを見つけたので、手をのばしましたが、とどきませんでした。ウ 大きなりんごをとることができなかったのので、「マサトにまける」と思いました。

つぎの文しょうをよんで、といにこたえよう。

「みゃあ。みゃあ。」

きのう、ミケの子こどもが生まれた。ミケは子ね
このころから家であっているねこだ。ぼくとミケ
は何をするにもいつもいっしょだった。ぼくにとつ
てミケは、兄弟であり、家ぞくであり、友だちな
のだ。だから、うれしそうに子ねこの顔をぺろぺ
ろなめるミケを見て、ぼくもうれしくなった。

ミケがぼくのふくをひっぱる。

「どうしたの、ミケ。」

「にゃあ。にゃあ。」

ぼくに、「こつちに来い」って言っている。ぼくは
ミケのあとをついて行った。子ねこの前に行く
と、ミケはうれしそうにぼくに話しかけた。

「にゃあ。にゃあ。にゃあ。にゃあ。」

ミケはぼくに子ねこたちをしようかいしてくれた
のだ。この子ねこはこうでね、そつちの子ねこはこうでね
て。ぼくはうれしくなって、子ねこたちをだきあ
げた。すると、子ねこたちは

「みゃあ。みゃあ。」

と言っている。顔をぺろぺろなめだしたんだ。ぼ
くはわらいながらみんなに言った。

「よろしくね。」

みんなも「よろしく」って「にゃあ、にゃあ。みゃあ、
みゃあ。」と話した。

(1) ぼくにとってミケは、何ですか。□に入るこ
とばを書こう。

であり、

であり、

なのだ

(2) ふくをひっぱりながら、「にゃあ。にゃあ。」
と言ったミケは、ぼくに何と言っていたのです
か。アからウからえらぼう。

ア おながすいた イ こつちに来い
ウ よろしく

(3) ぼくが子ねこたちをだきあげたら、子ねこた
ちはどうしましたか。□に入ることを書こう。

「

」と言って、

ぼくの

をぺろぺろ

た



つぎの文ししょうを読んで、といに答えよう。

きのう、ぼくはおとうさんとおかあさんとおねえちゃんの四人でりんごがりに行きました。りんご園には、まっかなりんごがなった木がたくさんありました。ぼくはおねえちゃんと、どちらが大きなりんごをとれるか、きょうそうすることになりました。

ぼくが大きなりんごをさがしてキョロキョロしているとおねえちゃんが

「あつ。」

と言って、どこかに走って行ってしまいました。きっと大きなりんごを見つけたにちがいありません。ぼくは、おねえちゃんにぜったいまけないぞと思ひながらさがしました。しばらく歩いてると、大きなりんごの木を見つけました。首がいたくなるくらい見上げると、大きなりんごがありました。

「ふっふっふ。あれならぜったいに、ぼくのかちだ。」

ぼくは近くにいたおじさんにおねがいして、大きなりんごをとってもらいました。大きなりんごを手に入れたぼくは、心の中で「これで、ぼくのかちがきまった」と思いました。

(1) りんご園には、何がありましたか。□に入ることばを書こう。

がなった

がたくさんあった

(2) ぼくは、どんなふうに思ひながらりんごをさがしましたか。アからウからえらぼう。

ア おねえちゃんにまけたらどうしよう。

イ おねえちゃんはどこに行っちゃったんだろう。

ウ おねえちゃんにぜったいまけないぞ。

(3) ぼくは、どうやって大きなりんごをとりましたか。□に入ることばを書こう。

近くにいた

に

してとってもらった



つぎの文しょうを読んで、といに答えよう。

「みゃあ。みゃあ。」

きのう、ミケの子どもが生まれた。ミケは子ね
このころから家であっているねこだ。ぼくとミケ
は何をするにもいつもいっしょだった。ぼくにとつ
てミケは、兄弟であり、家ぞくであり、友だちな
のだ。だから、うれしそうに子ねこの顔をペロペ
ロなめるミケを見て、ぼくもうれしくなった。

ミケがぼくのふくをひっぱる。

「どうしたの、ミケ。」

「にゃあ。にゃあ。」

ぼくに、「こつちに来い」って言っている。ぼくは
ミケのあとをついて行った。子ねこの前に行く
と、ミケはうれしそうにぼくに話しかけた。

「にゃあ。にゃあ。にゃあ。にゃあ。」

ミケはぼくに子ねこたちをしょうかいしてくれた
のだ。この子はこうでね、そつちの子はこうでね
て。ぼくはうれしくなって、子ねこたちをだき
あげた。すると、子ねこたちは

「みゃあ。みゃあ。」

と言ってぼくの顔をペロペロなめだしたんだ。ぼ
くはわらいながらみんなに言った。

「よろしくね。」

みんなも「よろしく」って「にゃあ、にゃあ。みゃあ、
みゃあ。」と話しだした。

(1) きのうミケに何がおきましたか。□に入るこ
とばを書こう。

ミケの

が

た

(2) 線「ぼくもうれしくなった」とありますが、
なぜうれしくなったのですか。アからウからえ
らぼう。

ア うれしそうに子ねこの顔をなめるミケを
見たから。

イ 子ねこがぼくの顔をペロペロなめだした
から。

ウ ミケがぼくに子ねこをしょうかいしてく
れたから。

(3) ぼくがミケのあとをついて行くと、ミケは何
をしてくれましたか。□に入ることばを書こう。

ぼくに

を

してくれた



つぎの文しょうを読んで、といに答えよう。

夏休み、わたしは家ぞくで山の中にキャンプにいきました。林の中を歩いていると、

「タタタタ……。」

と木をつつくような音が聞こえてきました。そうです。キツツキが木をつついて音です。

キツツキは森や林にすむ鳥です。「木をつつく」

ことから、キツツキという名前がつきました。

日本には十一しゅるいのキツツキがいますが、せかいには二百しゅるいくらいいます。

キツツキは、がんじょうな足で木のみきや、えだの下がわにつかまって、木のかわの中にかくれている虫を食べます。また、木にあなをあけて、すの中のアリを食べることもあります。

木などをはげしくつついて「タタタタ……。」という音をだしますが、これにはいみがあります。音をだすことで自分のなわばりをしゅちようしているのです。これを、ドラミングといいます。森や林の中を歩くときは、この音をたよりにさがせばキツツキが見られるかもしれません。

しかし、さいきんでは森や林の木が切られ、ど

んどんへっているため、キツツキのすみかやえさをとる場しよがなくなってきました。そのため、ぜつめつがしんぱいされているしゅるいもいるのです。

(1) キツツキという名前は、どんなことからつきましたか。□に入ることばを書こう。

「
□
」ということから

(2) キツツキは何を食べますか。□に入ることばを書こう。

・木の
□
の中に

いる
□
を食べる



(3) 音をだすことで自分のなわばりをしゅちよう
することを、何といいますか。

の中の

を食

・木に

をあけて、



つぎの文しょうを読んで、といに答えよう。

夏休み、わたしは家ぞくで山の中にキャンプにいきました。林の中を歩いてみると、

「タタタタ……。」

と木をつつくような音が聞こえてきました。そうです。キツツキが木をつついていてる音です。

キツツキは森や林にすむ鳥です。「木をつつく」ことから、キツツキという名前がつきました。日本には十一しゅるいのキツツキがいますが、せかには二百しゅるいくらいいます。

キツツキは、がんじょうな足で木のみきや、えだの下がわにつかまって、木のかわの中にかくれている虫を食べます。また、木にあなをあけて、すの中のアリを食べることもあります。

木などをはげしくつついて「タタタタ……。」という音をだしますが、これにはいみがあります。音をだすことで自分のなわばりをしゅちようしているのです。これを、ドラミングといいます。森や林の中を歩くときは、この音をたよりにさがせばキツツキが見られるかもしれません。

しかし、さいきんでは森や林の木が切られ、ど

んどんへっているため、キツツキのすみかやえさをとる場しょがなくなってきました。そのため、ぜつめつがしんぱいされているしゅるいもいるのです。

(1) キツツキという名前は、どんなことからつけましたか。□に入ることばを書こう。

「
□
」ということから

(2) 音をだすことで自分のなわばりをしゅちようすることを、何といいますか。

□



(3) なぜキツツキのぜつめつがしんぱいされているのですか。□に入ることばを書こう。

森や林の

が

れ、

どんどんへっているため、キツツキの

や

を

とる場しよがなくなってきたから



ことばさがしに ちょうせん！ （もんだい）

レベル 3

- 1 ひらがなが たくさん ならんだ ますから 「たて」 「よこ」に ちゅうもく して
2 もじや 3 もじの ことばを たくさん みつけましょう。とくべつルール として
【つ➡っ】【や➡ゃ】というように ちいさなもじに して かんがえても よいです。

ぶ	ご	じ	つ	れ	あ	ぴ	お	つ	げ
ん	る	ん	よ	さ	い	ん	い	る	す
こ	せ	つ	か	ぺ	つ	ち	と	ま	と
だ	る	た	く	ん	て	で	ば	い	け
ま	ふ	も	じ	つ	わ	ん	つ	く	い
つ	な	ん	じ	ん	ば	と	と	つ	か
よ	つ	せ	え	い	つ	で	や	つ	り
や	げ	み	ふ	う	ぽ	ん	が	ん	ん
あ	ぞ	な	ぜ	う	つ	よ	や	や	ぐ
ど	え	つ	ろ	え	と	つ	よ	ま	あ

- 2 みつけたら （きにゅうようし）や じぶんの のーとに みつけた ことばを かいて
みましよう。 じしよを つかって ことばの いみを しらべてみよう！



ことばさがしに ちょうせん！ （きにゅうようし）

レベル 3

